特集 ごみ再考

今、すぐにできること

例えば、レジ袋やめてマイバッグにしませんか

ごみの減量化やリサイクル――わたしたちの日常生活にとても身近な問題であり、地球規模の課題にもなっています。地球の未来のためにも、わたしたち一人一人の心掛けが大切です。市のごみ処理の現状と、ごみを減らすための取り組みやリサイクル活動などを通して、わたしたちが「今、すぐにできること」について考えていきたいと思います。

第1章

成田市のごみ処理事情

自分が一日にどのくらいのごみを出すか、考えてみたことはありますか。現代社会で便利に暮らすわたしたち。いったいどれほどのごみを排出するのか、即答できる人はまずいないでしょう。

一日にどのくらいごみを出すのか

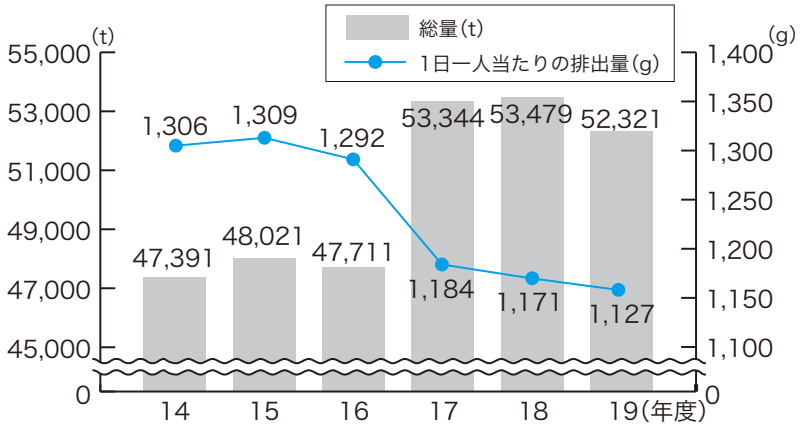
現代社会は、ものが溢れる時代と言われます。身の回りを見渡してみると、使い捨てのものや余計な包装類が多いことに気が付きます。とあるサラリーマンの昼食を例にとると…割り箸、プラスチック容器、レジ袋など。毎日の何気ない生活の中、気付かぬうちに、大量のごみを出しているものです。

市民一人当たりの一日のごみ排出量を計算すると、およそ1、127グラムになります。4人家族で考えると、ボックスティッシュ約20箱分です。市民みんなが、毎日この量のごみを出し続けると…成田市全体で、1年間に大谷津運動公園の50メートルプールの水約60杯分の重さになります。

ごみの量と経費

平成19年度のごみ搬入総量（事業ごみを含む可燃物・不燃物の合計）は52、321トンです。また、ごみ処理に要した経費*は年間約21億8、859万円、一人当たりに換算すると約1万7、200円になります。

ごみ総量と一日一人当たりの排出量



平成14～16年度は合併前の旧成田市の数値を用いています。

＊下総・大栄地区のごみ処理は香取広域市町村圏事務組合が行っているため、同事務組合への負担金と旧成田地区のごみ処理経費を合算して算出。

「もったいない」から「MOTTAINAI」へ

普段、何気なく使う「もったいない」という言葉。この言葉、実はすごい言葉だったってご存じでしたか？環境活動の「3R」リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）をたった一言で表すことができ、しかも、かけがえのない地球資源に対するリスペクト（尊敬の念）が込められている。世界中の言語を探しても、これらすべてを一言で表せる言葉は、ほかにないそうです。

環境分野で初めてノーベル平和賞を受賞したケニア出身の環境保護活動家、ワンガリ・マータイさんらによって、環境を守る世界共通語として「MOTTAINAI」が世界に広まろうとしています。地球環境に負担をかけないライフスタイルを広め、持続可能な循環型社会の構築を目指す世界的な活動として…。

日本が培ってきた「もったいない」文化。自信を持って広めていきませんか。

第2章 リサイクル現場発

ごみ――物のくず、不要になったもの、役に立たないものなどの総称。でも、リサイクル可能なものは、ごみではなく、貴重な資源なのです。リサイクルプラザでは、資源物の回収や自転車・家具などの再生をしています。リサイクル現場発――現場で働く人に聞いてみました。

リサイクルプラザ 粗大ごみ処理施設棟

原石から宝石を取り出す

成田市資源回収協同組合　萩原工場長

リサイクルプラザに搬入されてくるごみは、赤(ビン・カン・ガラス)、黄(金物・陶磁器類)の袋。これらは、分別回収してリサイクルすることによって、資源として再利用できる―いわば、宝石の原石のようなものです。大量の原石から、いかに効率的に宝石を作り出すか。これがわたしたちの仕事と言えます。原石といっても、混ぜこぜのままではただのごみ。純度の高い宝石を作り出すには、不純物を取り除かなければなりません。

わたしたちはまず、搬入されたごみを、手作業で大きく3つに分別します。①鉄くず②瓶、陶磁器、電球、電池など③スチールやアルミ製の缶です。鉄くずや缶は、それぞれ機械で圧縮し、種類ごとに資源化。瓶、電球、電池は、工程の中で手作業で分別していき、それぞれ資源化されます。こうして、ビニールや陶磁器などリサイクルに不向きなもの以外は、すべてリサイクル。ダイヤモンドやルビー、エメラルド…とまではいきませんが、さまざまな資源物を取り出すことができるのです。

分別せずにごみを捨てるのは非常に楽ですよね。でも、この仕事をしていると、もう、分別せずに捨てることはできませんね。混ぜこぜにされた大量のごみは、資源ごとに分別するのにかなりの労力と経費を要し、リサイクル率を低くしてしまいかねないことが分かっているからです。

わたしたちはこの仕事に誇りを持っています。貴重な資源の回収は、自分たちのためだけでなく、わたしたちの後の世代、また、未来の地球を変えるかも知れないのですから。

瓶のふたは一つ一つ手で外す

リサイクルプラザ 不用品再生棟

再生品に命を吹き込む

成田市小泉管理組合　椎名副理事長

わたしたちの仕事は、簡単に言うと、不用品を再生する仕事です。

不用品といっても、さまざまあるでしょう。長年愛用して「もうこれ以上使えない」というところまで使い切ったものから、まだ十分使えるんだけど「いらなくなったから」と捨てられてしまうもの。「人生いろいろ…」ということで、やむを得ないところもあるんでしょうが、リサイクルプラザに搬入されてくるものを見ると、「まだ使えるのにもったいない」と思うようなことが多々ありますね。

わたしたちは、使われなくなった自転車や、不用になった家具などを再生し、定期的に販売しています。販売していて思うのは、需要と供給さえ合えば、再生品をかなり有効活用できるということですね。ある人にはいらなくなったものでも、ある人には十分使える掘り出し物だったりする。だから、再生品を提供する「場」が大事なんだってね。わたしたちの取り組みが、そんな場になっていれば嬉しいですよね。

月に1回の販売会は大盛況。価格はどれも5、000円以内で、とても好評です。人気のあるものは抽選になるなど、ほぼすべてのものが売り切れてしまいます。

再生品を有効利用するには、製品化するためのメンテナンスが大事です。買ってもらった皆さんに少しでも長く使ってもらいたい―丁寧さと慎重さをモットーに一つ一つ作り上げています。

丹精込めて自転車を蘇らせる

小学生から 働いている人に質問！

毎年、市内の小学校から多くの豆記者たちが訪れます。

Q1：ごみの分別の仕方は住んでいるところによって違うの？
A1：分別は市町村ごとに異なります。

Q2：燃やした後に出る灰はどうするの？
A2：セメント原料化したり舗装道路の敷石に利用したりします。

Q3：ダイオキシンなど有害物質を発生させないための工夫は？
A3：燃焼温度の管理やさまざまな設備により有害物質を除去しています。

Q4：働いている人の人数は？
A4：いずみ清掃工場が33人、リサイクルプラザが46人です。

Q5：燃やせないごみを燃やせるごみと混ぜて出してしまうとどうなってしまうの？
A5：故障の原因にもなります。多額の修理費や多くの日数を要することになるので、しっかり分別してください。

豆記者から鋭い質問が飛び交う

リサイクル率は25・3％に

「ビニール・プラスチック類」の原料化（ペレット化）や固形燃料化、さらにいずみ清掃工場から排出される焼却灰のセメント原料化など、新たな再資源化の方法に取り組んでいます。リサイクルプラザに搬入される不燃物のごみからの有価物選別率（リサイクル率）は25.3％になっています。

Reduce Reuse Recycle

第3章 実を結ぶ 一人一人の地道な活動

循環型社会の実現のためには、わたしたち一人一人の心掛けが大切です。今、すぐにできること。市内でも、リサイクル運動に加え、新たな取り組みが始まっています。

使用済み天ぷら油を回収

家庭から出る使用済み天ぷら油や賞味期限切れ油を、資源として有効利用するため、毎月第4水曜日に、市役所や支所などで回収を行っています。ペットボトルなど、フタが閉まる容器で回収場所へご持参ください（動物性油などは回収しません）。

地域でリサイクル

ごみの減量化と再資源化を図るため、再利用できる資源ごみ（新聞、雑誌、段ボールなど）を回収するリサイクル運動が、以前から盛んに行われています。

市では、自治会や子ども会など、リサイクル活動に取り組む登録団体（地域住民で構成された営利を目的としない団体）に対して、集めた資源物の重量に応じて奨励金（1キログラムにつき10円）を交付しています。平成19年度末時点で159団体の登録があります。集めた資源物量は約2、770トンで、奨励金総額は2、770万円となり、1団体平均約17万4、000円となっています。

マイバッグ運動

小売店が渡すレジ袋を使わず、消費者が持参した袋やバッグを使用しようという運動。県内では、1年間に17億1、000万枚ものレジ袋が消費されていると推計されています（データ：県環境生活部）。一人当たりの消費量に換算すると、何と300枚にもなります。

レジ袋の削減は誰でも、すぐにできることです。ごみを減らすために、レジ袋を減らすことから、毎日の生活を少しずつ見直してみてはいかがでしょうか。買い物にはマイバックを使用して、お店でレジ袋をもらわないようにしましょう。

このほかにも、家庭用ごみ減量器具への補助金制度があります。詳細は本号10ページに掲載しています。ごみやリサイクルについてくわしくはクリーン推進課（☎20-1530）へ。

繰り返し生かそう 限りある資源

はじまりは「もったいない」

秋葉芳恵さん（加良部）

マイバッグを使い始めてから、半年以上になります。使うようになったきっかけは、気が付くと、買い物をした際にもらうレジ袋が、自宅に大量にたまってしまっていたことです。確かに、レジ袋は便利なんです。ごみ箱にかぶせたり、何かを保管しておいたり、わたしたちの生活になくてはならないものですね。ただ、必要以上に多くもらう必要はないんじゃないかなって。

今では、買い物の際の必需品ですね。このマイバッグ、結構、便利なんですよ。折りたためて、かさばらないし、普通のレジ袋なんかよりもたくさんのものが入ります。しかも、ナイロンでできているので丈夫だし、そこそこ重いものや、とがったものも入れることができるんです。

マイバッグに限らず、ふと考えてみると、わたしたちの身の回りでも、環境に優しいことって結構できるんだなって思います。例えば、わたしがよく買い物をするスーパーでは、牛乳パックや発泡スチロールの回収を実施しています。資源物をごみとして出すことは簡単ですが、日常のふとした心掛けで、環境によいことをすることもできるんですよね。

自分の子どもには、まだ漢字などが読めないくらいから、燃えるごみは青色袋、ビニールは白色袋というように、色で分別を覚えさせました。また、学校のリサイクル活動やごみ処理場見学などを通して、少しは環境やごみについて、関心を持ってくれているようです。

地域一丸となってリサイクルを

クラシード竹の子子ども会会長
菱沼清美さん（江弁須）

「クラシード竹の子子ども会」では、地域の人たちにご協力いただき、新聞・雑誌などの紙類や、瓶・缶・ペットボトルなどの資源ごみの回収作業を行っています。回収日を事前にちらしでお知らせして、リサイクル活動当日、資源物をそれぞれの玄関前に出しておいてもらっています。

回収は、高学年の子どもをリーダーに、当番の子どもと保護者が協力して回収場所に運びます。集まった資源ごみは、種類ごとに分別してから、業者に回収してもらっています。

うちの自治会は、件数が約130軒あるので、1回の回収でも結構の量が集まります。住民の皆さんには、分別をきちんとしてもらったり、子どもたちが運びやすいように新聞などを小さめの束にしてもらったりと、いろいろと気を使ってもらって助かっています。

いただいた奨励金は、子ども会のレクリエーション活動などに使っています。自分たちが使う経費を、自分たちで得ることによって、いくらかでも、働くことの大変さや、リサイクル活動の大切さを感じてもらえればいいなと思っています。

持続可能な循環型社会を

これまでの大量生産、大量消費、大量廃棄の消費型社会は、わたしたちに物質的な豊かさや快適な生活をもたらしましたが、一方では地球温暖化や天然資源の枯渇など、地球規模の環境問題をも引き起こしました。限られた資源を有効活用し、恵み豊かな地球環境を将来に引き継ぐため、ごみの発生を抑制し、環境の負荷を低減させ、持続可能な循環型社会を構築することが求められています。

こうした中、市では、現行の一般廃棄物処理基本計画を全面的に見直し、社会情勢などの変化、一市二町の合併に伴うごみ処理体系の枠組みの変更、分別区分やごみ処理システムの見直し、新清掃工場の整備など、これらの課題に的確に対応するため、平成20年3月に新たに一般廃棄物処理基本計画を策定しました。

「環境基本法」および「循環型社会形成推進基本法」の理念である、リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）の3Rを基本とし、施策の展開を計画しています。計画に定めた目標を達成するためには、市民・事業者・行政の協働によるごみ減量化・資源化を推進することが必要不可欠です。皆さんの、より一層のご理解とご協力をお願いします。計画全文および概要版を環境計画課ホームページ（http://www.city.narita.chiba.jp/sosiki/kankei/index.html）に掲載しています。また、環境計画課（市役所2階）、下総・大栄支所農産土木課、市立図書館、公民館、保健福祉館などでも閲覧できます。